

輝け！シン尾花沢中

たたえるほほの あかるさよ ああ光よぶ 学びやに

第125号
令和7年
11月14日

自分の考えを堂々と表現できる尾中生②

今号も、山形新聞「少年少女の声」コーナーに掲載された齊藤史穏さんの紹介です。

火の元の安全確認大切 ■ 2年 齊藤史穏さん

2025.10.16 山形新聞

僕は、7月に尾花沢市内の消防署で職場体験をしました。そこでは、心臓マッサージや自動体外式除細動器（AED）の使い方を教わったり、渡河訓練や放水訓練を体験させてもらったりしました。署の方々が、日々の安全と命を守るために、日々厳しい訓練をし、努力されている姿を実際に知ることができ、とても感動しました。しかし、体験学習からほどなくして大阪の消防士が2人殉職されたことをニュースで知り、ショックを受けました。あんなに厳しい訓練をしていても命を落してしまうことがあることを目の当たりにして、なぜそうなったのかニュースを注意深く見ていました。

2人の消防士は、火事が広がらないようにぎりぎりまで努力したのでしょう。はしご車が入りにくい地形で迅速に消火活動ができなかったということでした。もし文化祭を守る放水銃のようなものが近くに設置されていて、だれでもその存在と使い方を知っていれば初期の段階で消火できる可能性もあったかもしれないのに、と悔しい気持ちになりました。このビルは避難訓練を実施せず火災報知機を適切な場所に設置していなかったなどとして、過去に違反を指摘されていました。

職場体験とこの事件を通して、自宅のコンセントや暖房機器、火の元に不備がないかを確かめることを行うことが大切だと感じました。さらに消火器を設置したり消火の方法を理解しておいたりすることも必要でしょう。そうすることが、自分や家族を守り、地域を守ることにつながるのだと思います。



読者の皆さんに「僕の声が届くように」という気持ちを込めて、文章を作成しました。新聞に掲載されたことを受けて、周りからは「すごいね」とたくさんほめてもらいました。文章に書いたとおり、火の元に注意して生活していきたいです。

職場体験学習を単なる体験に終わらせる事なく、その後に起こった消防士の方の痛ましい事故と関連付けて、自分事として深く考えている点が素晴らしいです。

これからも日々様々な学習活動が行われますが、体験をより価値あるものにするために、実体験や自身の感想や思いと結び付けることを心がけてみてください。【文責：校長 工藤雅史】